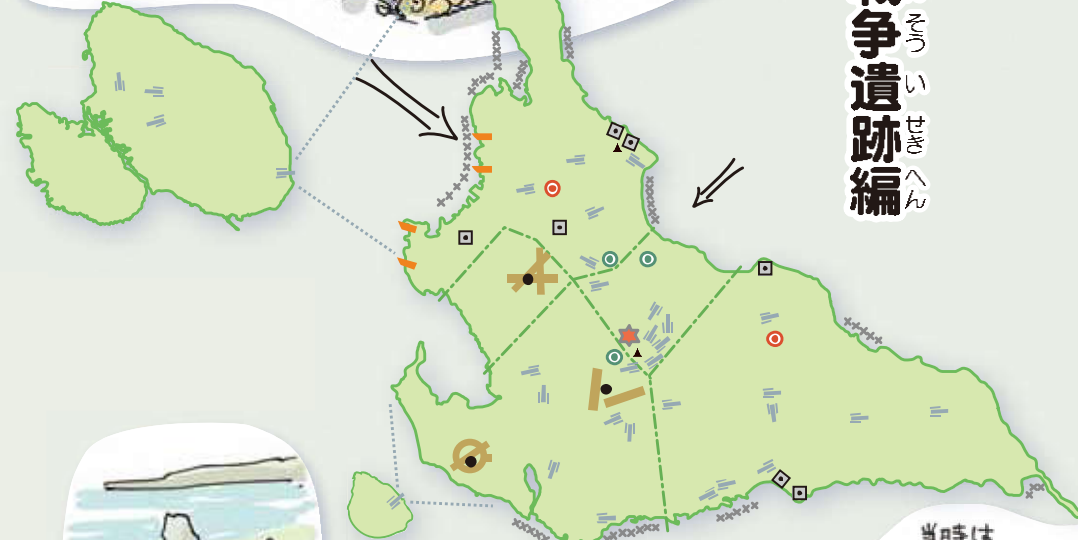
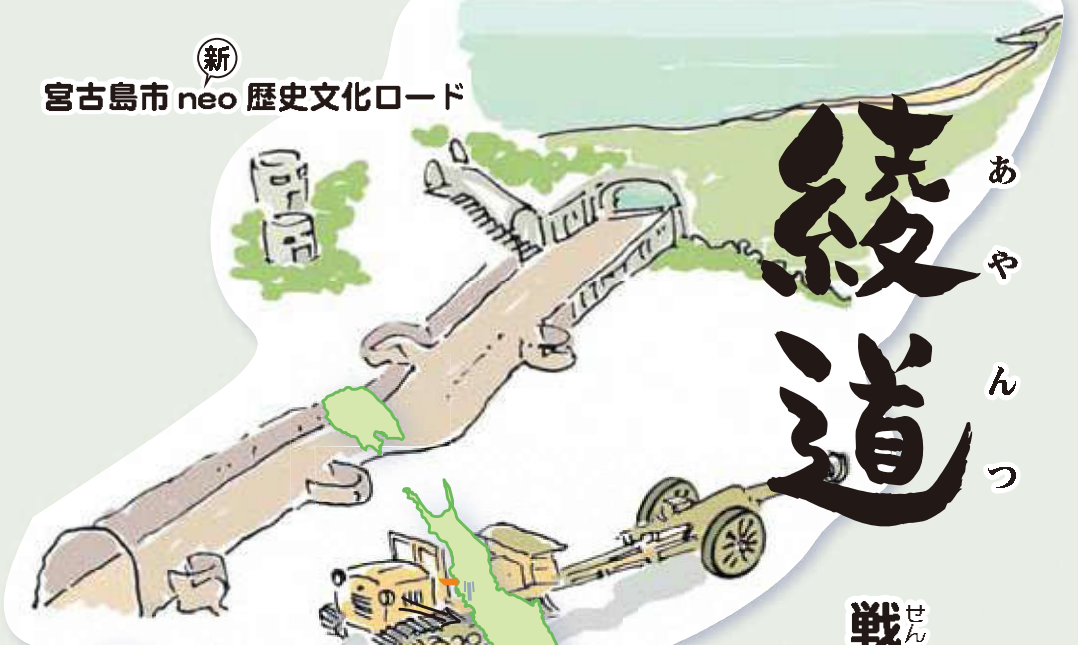




新 宮古島市 neo 歴史文化ロード



©2015 宮古島市教育委員会 発行

綾道

あや
んつ

戦争遺跡編

こう なか てんじょうへきめんほうらくきげん
壕の中は天井や壁面の崩落の危険があります。
こうない た い えんりよ
壕内への立ち入りはご遠慮ください。



ま、暗



崩落のキケン



足元が悪い



滑落のキケン

<戦争遺跡についてのお問い合わせ>

宮古島市教育委員会 生涯学習振興課 文化財係

<主な参考図書>

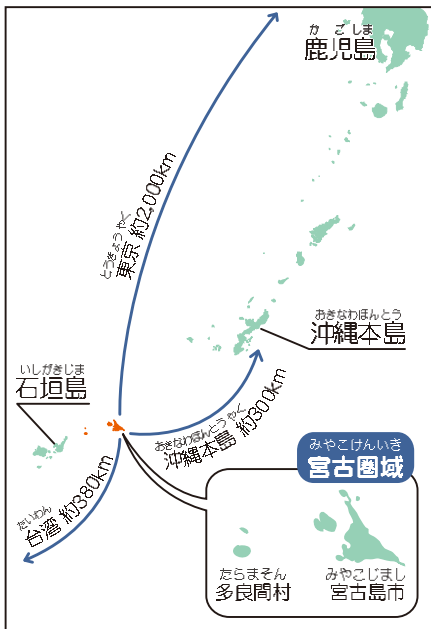
- ・『宮古の戦争と平和を歩く』宮古郷土史研究会 1995年
- ・『先島群島作戦<宮古編>』瀬名波栄 1975年
- ・『沖縄県戦争遺跡詳細分布調査（V）-宮古諸島編-』
沖縄県立埋蔵文化財センター 2005年
- ・『沖縄県の戦争遺跡』沖縄県立埋蔵文化財センター 2015年

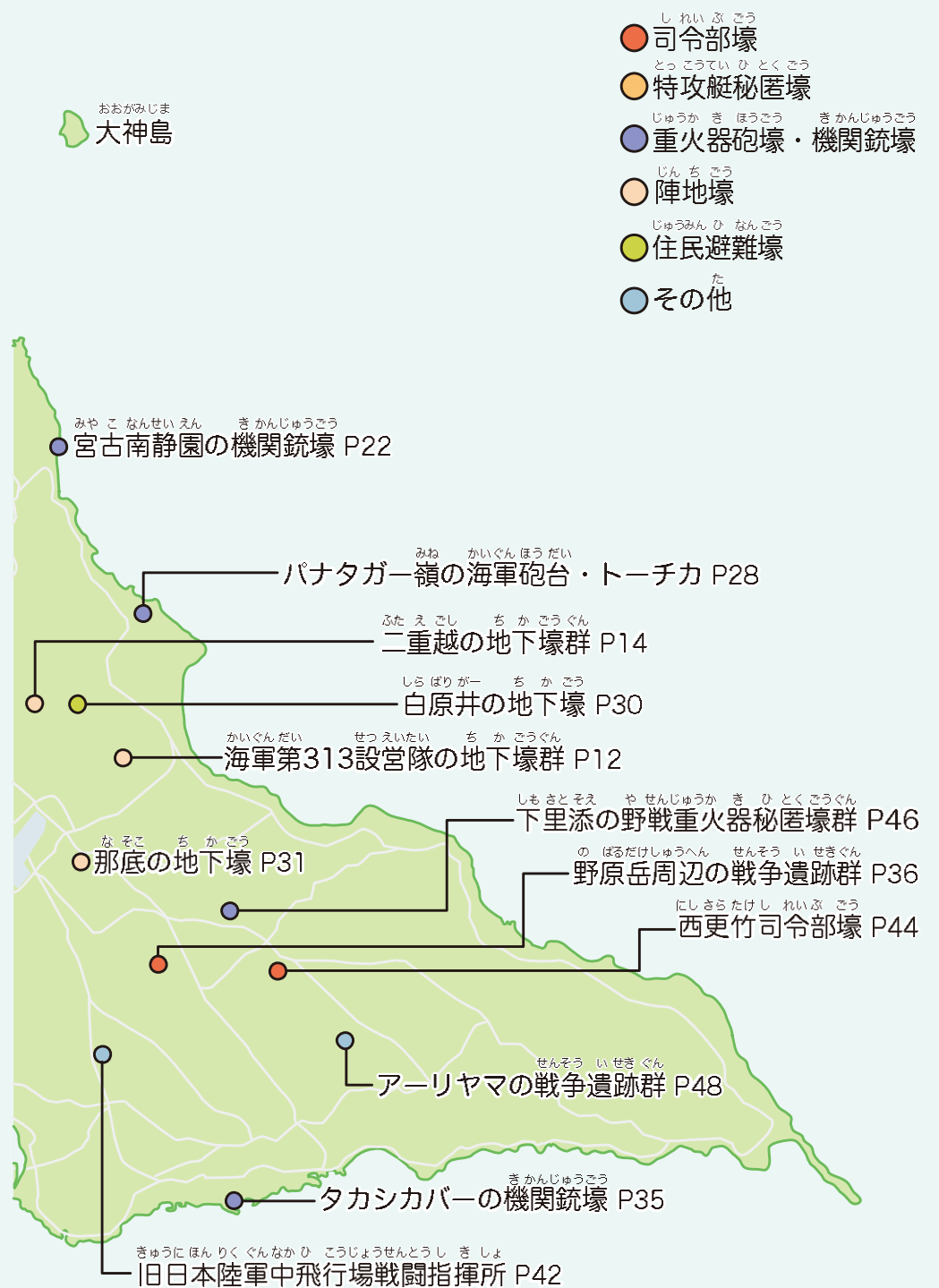
みやこじまし いちめんせき
宮古島の位置と面積

みやこじまし だいしやう しま
宮古島市は大小6つの島（宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島）で構成されています。

そうめんせき じんこうやく まん
総面積は204km²、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

しまぜんたい へいたん さんがくぶ
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。





- しれいぶごう 司令部壕
- とっこうていひとくごう 特攻艇秘匿壕
- じゅうかきほうごう 重火器砲台・きかんじゅうごう 機関銃壕
- じんちごう 陣地壕
- じゅうみんひなんごう 住民避難壕
- た その他

宮古島市の位置と面積	03
散策マップ	04
歴史略年表	08
宮古島地区防御配備図と宮古群島の沖縄戦のようす	10
【平良地区】	
海軍第313設営隊の地下壕群	12
二重越の地下壕群	14
ヌーザランミ特攻艇秘匿壕	16
大浜の特攻艇秘匿壕	18
その他の特攻艇秘匿壕	20
特攻艇とは	21
宮古南静園の機関銃壕	22
パイナガマの機関銃壕	24
久松の機関銃壕	26
パナタガー嶺の海軍砲台・トーチカ	28
白原井の地下壕	30
那底の地下壕	31
盛加越の海軍通信隊壕	32

【下地地区】

来間の山砲陣地壕	33
チフサアブ	34

【上野地区】

タカシカバーの機関銃壕	35
野原岳周辺の戦争遺跡群	36
電波探知機壕	36
タキグスバルの地下壕群	38
ツガガーの地下壕群	39
大嶽城跡公園西側壕群・トーチカ / 大嶽城跡公園東側壕群	39
野原の御真影奉護壕	40
御真影とは	41
陸軍中飛行場戦闘指揮所跡	42

【城辺地区】

西更竹司令部壕	44
下里添の野戦重火器秘匿壕群	46
アーリヤマの戦争遺跡群	48

【伊良部地区】

牧山陣地壕	50
-------	----

宮古島に配備された主な部隊編成と用語集	52
---------------------	----

※太字部分は宮古島における大きなできごと

西暦	沖縄・宮古島の動き	日本と世界の動き
1938年		4月 国家総動員法公布
1940年		9月 日独伊三国 軍事同盟成立
1941年	4月 尋常高等小学校は国民学校に名称変更(初等科・高等科)	12月 対米英宣戦布告 (真珠湾攻撃)
1942年	1月 福里北海岸浦底に飛行機不時着 2月 特務艦 柏丸、池間沖に停泊	1月 日独伊三国新軍事 協定調印 4月 米空軍、本土初空襲 6月 ミッドウェイ海戦 大敗 12月 ガダルカナル島 撤退決定
1943年	10月 七原、屋原、クイズで軍用飛行場用地接收 11月 特設警備第210中隊、下地国民学校を接收 貸船嘉義丸、湖南丸、奄美大島近海で撃沈	5月 アッツ島 日本守備隊全滅 9月 イタリア無条件降伏
1944年	3月 南西諸島に大本営直轄の第32軍が新設、沖縄防衛本格化 5月 要塞建築勤務第8中隊・第205飛行場大隊 宮古入り 平良第二国民学校・新里国民学校、軍に接收 陸軍宮古島西飛行場の建設開始 6月 宮古神社遷座祭・奉納祝祭開催 富山丸が徳之島東沖で撃沈され、宮古配備予定 の守備兵約3,700人が死亡 郡内各国民学校で「青少年兵志願隊」結成 陸軍宮古島中飛行場の建設開始 7月 城辺国民学校・西辺国民学校、軍に接收 奄美、沖縄、宮古、石垣の老幼婦女子に疎開命令。 宮古から本土、台湾へ約1万人疎開 第28師団配備、宮古高等女学校を司令部に接收 8月 平良第一・第二・下地の3校児童、九州疎開 対馬丸、悪石島付近で撃沈(22日) 9月 伊良部国民学校、軍に接收 10月 狩俣国民学校、陸軍病院分院として接收 「十・十空襲」米軍艦載機が県内全域を爆撃。 平良など、初めての空襲を受け、飛行場、港に 停泊中の船舶、民家に被害が出る 米軍上陸必須の状況と判断し、先島守備隊は第28師団司 令部を野原岳に構築、軍事物資を秘匿するための地下陣 地の構築が加速。住民の疎開や防空壕づくりも本格化	6月 マリアナ沖海戦 大都市の学童 集団疎開 7月 サイパン島の 日本軍全滅 8月 閣議、一億総武装を 決定 10月 レイテ島沖海戦 神風特攻隊初出撃
		12月 学徒出陣

出典：『宮古の戦争と平和を歩く』宮古郷土史研究会 1995年

西暦	沖縄・宮古島の動き	日本と世界の動き
1944年	11月 各国民学校の御真影・勅語謄本を宮古中学校 に移動(1日)し、翌日、野原越の「奉遷所」に移 す 宮古出身者約800人が警備召集(特設警備505大隊) 12月 宮古群島守備兵力、ほぼ展開終了(陸軍2万 8,000人、海軍2,000人、計3万人余り)	
1945年	1月 納見敏郎中將が第28師団長に着任 2月 宮古に空襲や警報発令が続く 3月 数百機による大爆撃により宮古島全域が被害 をうける。住民の犠牲も続出 4月 米軍、北谷・読谷に上陸(1日) 平良の街の中央部から北西部が爆撃により焼失 米太平洋艦隊司令官、宮古島攻略の無期延期を指令 5月 英太平洋艦隊、宮国沖から艦砲射撃(4日) 軍艦18隻に385発撃ち込まれる 日本軍南部へ撤退、10万以上の住民が戦闘に巻き込まれる 6月 宮古出身者の防衛召集が強化される 第32軍司令官牛島満ら、摩文仁で自決 沖縄戦終了(23日) 。一般人約9万4,000人・ 将兵約9万4,000人、米軍将兵約1万2,000人が死亡 7月 米軍、琉球作戦終了を宣言 8月 終戦(15日) 米軍機により降伏ビラがまかれる 軍旗、野原岳の洞窟司令部で奉焼の後、洞窟司 令部を破壊、「御真影」「勅語謄本」などを奉焼 9月 現地編成及び現地徴収部隊の復員終了 納見先島集団長ら、米軍機で沖縄本島へ渡り、 降伏文章に正式調印。 米軍約2,000人が宮古島へ上陸し、日本軍の 武装解除にあたる。 武器は海中投棄され、重火器などは爆破 10月 兵器奉還業務完了、宮古に駐屯する将兵らの 復員はじまる(翌1月に一応の終了) 12月 米軍、宮古島へ進駐 納見中将、BC級戦犯に指名され、野原越司令 部の宿舎で自決(13日)	2月 ヤルタ会談、米機動 部隊本土初空襲 3月 硫黄島の日本軍全滅 東京大空襲 5月 ドイツ軍無条件降伏 8月 米軍、広島(6日)と 長崎(9日)に原子爆 弾投下。 日本、ポツダム 宣言受諾(14日) 連合軍先発隊、厚木 に到着 9月 降伏文書調印(7日) 10月 政治犯3,000人釈放 国際連合発足

みやこじまちくほうぎょはいびず おきなわせん
宮古島地区防御配備図と宮古群島の沖縄戦のようす

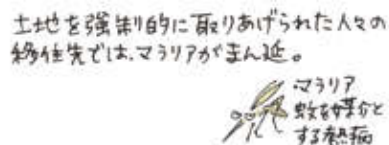
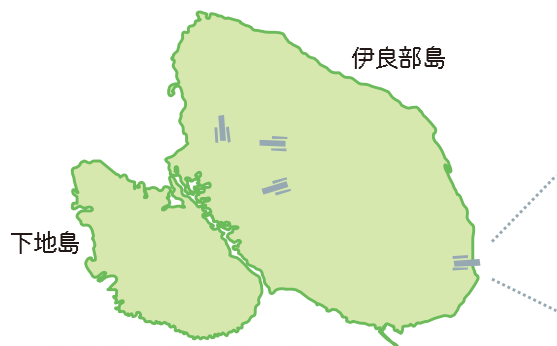
参考：『宮古島市史 第一巻 通史編』/沖縄県立埋蔵文化財センター

米軍の上陸があるとされていた宮古島では、敵の上陸地点に兵力を集め、一挙に敵を壊滅させる「水際作戦」をたてました。万が一、敵の上陸を許した場合は、野原岳周辺の陣地間を複雑な迷路や枝状の通路で繋ぐ複郭陣地で持久戦を展開することも計画していました。そのため、敵上陸地点を地形から判断して、①平良港、②下地村宮国から嘉手苅、③白川湾の3か所と予想し、それぞれの地点に水際陣地、特攻艇秘匿壕、海軍砲台などを構築し、兵力を集中展開しました。

そのため、小さな宮古島に約3万もの将兵が配備され、ほとんどの兵種の部隊が展開していました。結果的に米軍の上陸はありませんでしたが、十・十空襲や五・四艦砲撃などによる被害と、飢えやマラリアで、住民も含めた多くの命が失われました。

宮古諸島に配備された日本軍は、捕虜となることなく、組織的に武装

解除して降伏しています。そのため、任務を終えて帰還するまでの間、慰霊塔の建立や戦後の政治・軍事情報などの情報紙の発行といった、沖縄本島では見られない日本軍の戦後がありました。



海軍砲台	師団司令部	地区境界
山砲	旅団司令部	水際障害物
特攻艇秘匿壕	連隊本部	敵の進攻

※宮古島市内の戦争遺跡は保存状態が良好な物が多く、特に日本軍の陣地や施設などの構造物は多彩です。

2005年の調査では、平良地区16、下地地区4、上野地区11、城辺地区26、伊良部地区5、総計62の戦争遺跡群が報告されています。



『先島群島作戦（宮古篇）』 瀬名波栄を参考に作成

そう えんちよう みや こ しま さいちよう ごう
 総延長 500m以上、宮古島最長の壕

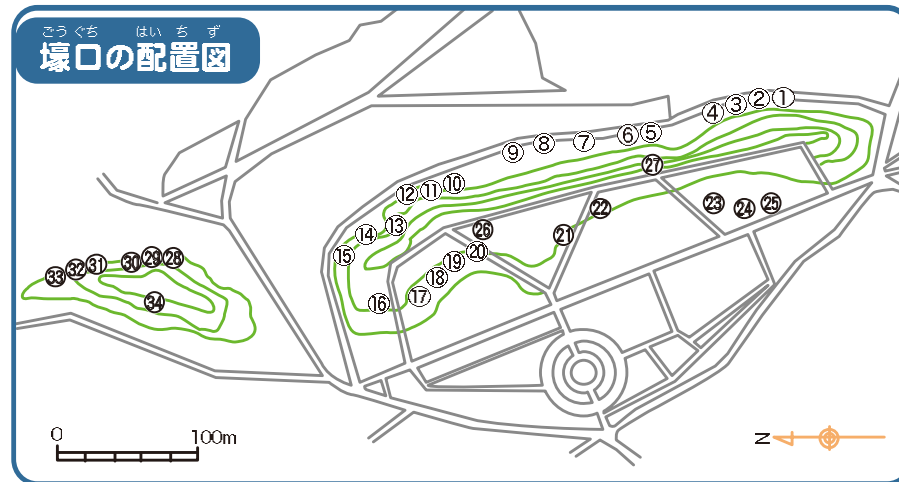
かい ぐん だい せつ えい たい ち か ごう ぐん
海軍第313設営隊地下壕群



しよざいち ひらら あざひがしなかそね ねったいしよくぶつえん みやこせいしやうねん いえ ぶきん
 所在地：平良字東仲宗根（熱帯植物園から宮古青少年の家付近）

ねったいしよくぶつえん みやこせいしやうねん いえ きゆうりやう
 熱帯植物園から宮古青少年の家にかけての丘陵には、34カ所の壕口が広範囲にわたって造られています。

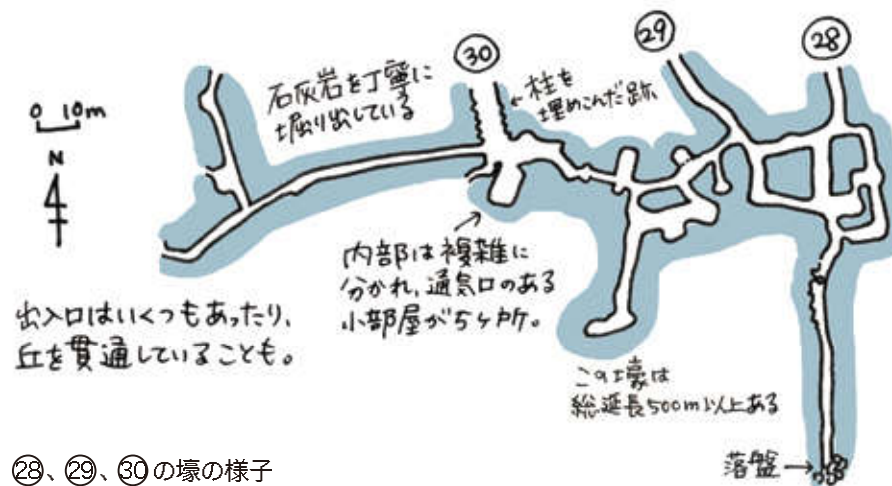
これらの壕群は、軍事作戦に必要な陣地を構築する「海軍第313設営隊（650人）」の本拠地に関連するもので、中には総延長が500m以上にも及ぶものもあり、宮古島で最長の壕が確認されています。



たな りやう おも くほ
 棚として利用されていたと思われる窪み



い く ないぶ
 入り組んだ内部



28、29、30の壕の様子

陣地壕

ふた え ごし ち が ごう ぐん
二重越の地下壕群



所在地：平良字東仲宗根（市民球場西の丘陵）

二重越の地下壕群は、丘陵東側の壁面を掘り込んで構築されています。10の壕からなり、最大の壕④は、5つの壕口が連結し、総延長は200m以上にもなります。また、中にはコンクリートづくりの壕や、電線を渡したと思われる鉄製のフックや罫子※が散在する壕も確認され、軍事的に重要性の高い地下壕群であるといえます。聞き取りや関係資料から、「海軍警備隊本部」と考えられています。



壕②の内部



壕内に散在する罫子



陣地壕



壕④



壕③



※罫子：電線とその支柱物とのあいだを絶縁するために用いる器具。

とっ こう てい ひ とく ざう
ヌーザランミ特攻艇秘匿壕



しよざいち ひらら あざかりまた かいちゆうこうえんふきん
所在地：平良字狩俣（海中公園付近）

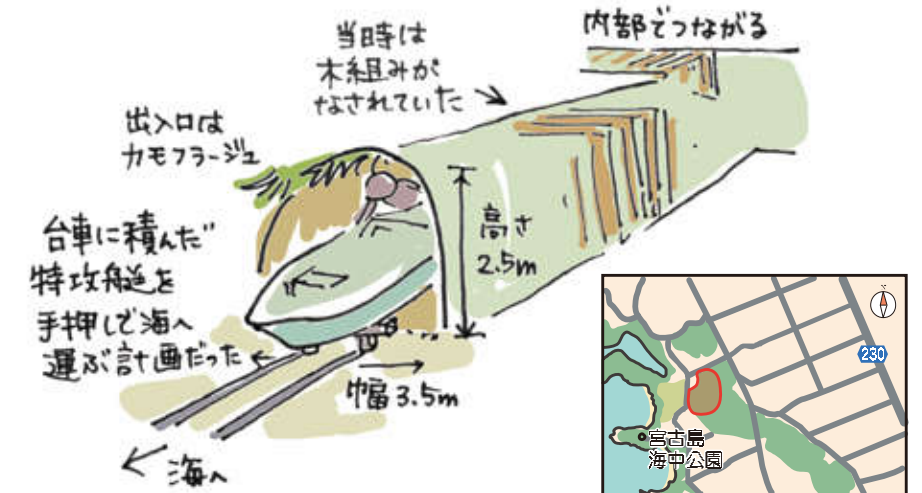
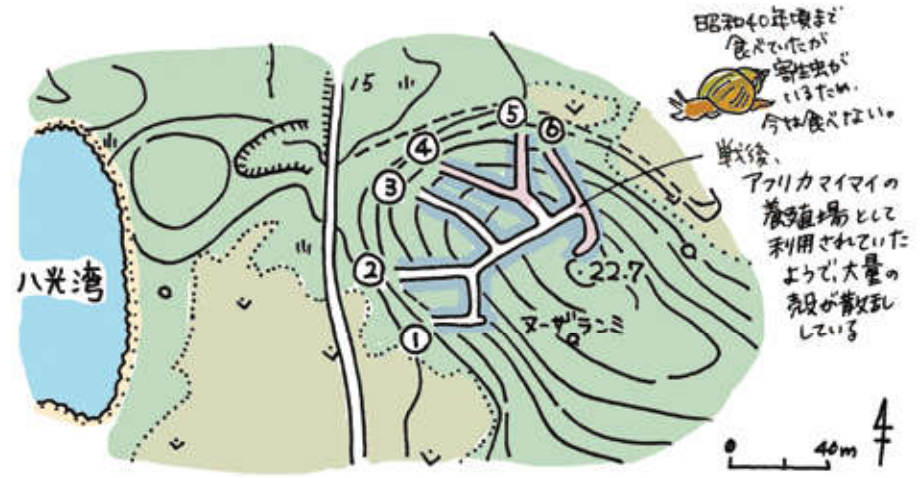
宮古島市内の戦跡で唯一、市の史跡に指定されています。壕は6つの壕口が連結しており、総延長は約300m程になります。当時、壕の内部には41艇の特攻艇が格納され、特攻艇を載せる台車のレールが八光湾まで敷かれていました。壕は「海軍第313設営隊」が構築し、「第41震洋隊（八木部隊）」が配置されましたが、宮古島には米軍の上陸がなかったため、出撃することはありませんでした。



こうえんけい
壕遠景



こうないぶ
壕内部



りくぐん とっこうてい ひとく
陸軍の特攻艇を秘匿するためにつくられた壕群

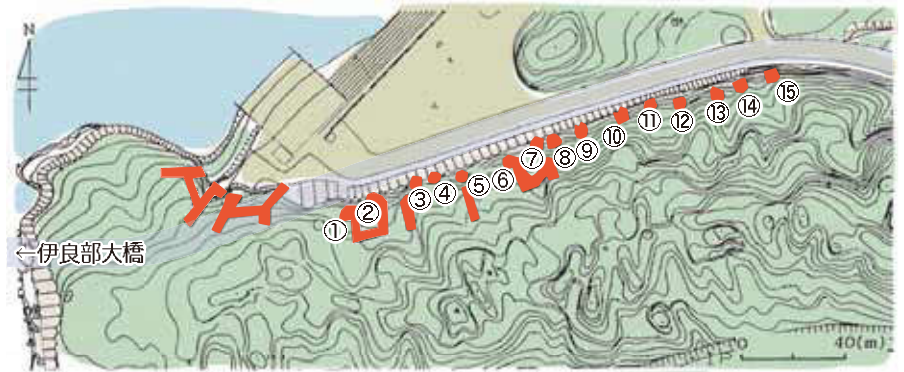
おおはま とっこうてい ひとく ごうぐん
大浜の特攻艇秘匿壕群



所在地：平良字久貝（伊良部大橋付近）

宮古島から伊良部大橋へと繋がる道の左手側に、数多くの壕が残されています。これらの壕群は、琉球石灰岩を「コの字型」や「H型」に、掘り込んであります。壕①には特攻艇を移動させるためのレールを設置した際の敷石が残っています。こちらの壕群には「海上挺進第30戦隊」の特攻艇を秘匿する予定でしたが、奄美近海で全滅してしまったため、使用されることなく終戦を迎えました。

※秘匿：こっそり隠しておくこと



現在では壕の北側が埋め立てられていますが、当時は海に隣接しており、特攻艇はすぐに出撃できるようになっていました。2015年に開通した伊良部大橋の道路建設によって、海側の2か所の入り口は埋められています。



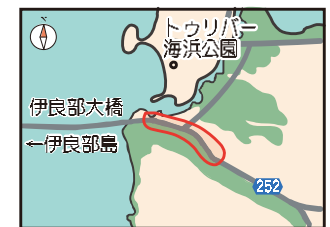
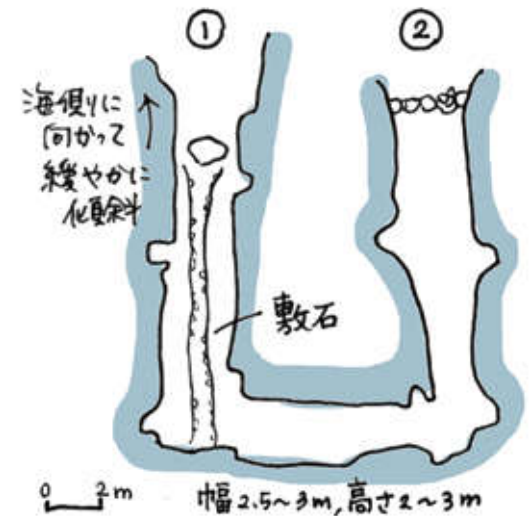
①の壕内部



レールを設置した敷石の跡（①の壕）



②の壕内部より壕口をのぞく



その他の特攻艇秘匿壕



トゥリバー浜特攻艇秘匿壕群



荷川取海岸秘匿壕群・ウブドゥ
マーリヤ特攻艇秘匿壕群



ヌーザランミ
特攻艇秘匿壕

大浜の特攻艇秘匿壕

カンギダツ壕・カヤフフヤ壕



カヤフフヤ壕 (下地島)



カンギダツ壕 (下地島)

とっこうてい 特攻艇とは

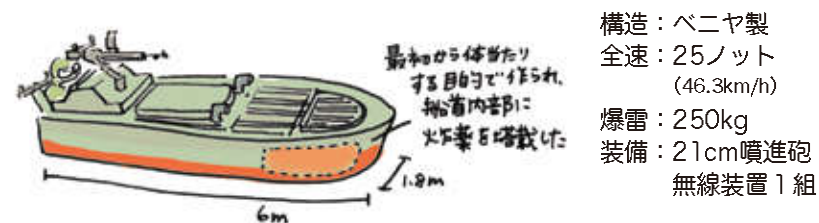
特攻艇は、爆弾を積んだまま敵軍の艦船に体当たりする兵器で、日本軍が戦局を挽回しようと製造した苦肉の自爆兵器でしたが、実際の戦闘では、艦船に近づくことも難しく、ほとんど戦果を上げることができませんでした。

りくぐん すいじょうとつ こう てい よんしきにくはくこうげきてい まるれ
陸軍水上特攻艇「四式肉薄攻撃艇 ㊀」



りくぐん こがたこうげきてい たいりょう せんてい てきせんかん にくはく ぼくらい どうか りだつ
陸軍の小型攻撃艇。大量の船艇で敵艦に肉薄し、爆雷を投下して離脱するという考えの元に開発されたものだが、体当たりしたほうが戦果が上がり、また技量もそれほど要らないことから、体当たり攻撃用に使われるようになった。

かいぐん すいじょうとつ こう てい しんよう
海軍水上特攻艇「震洋」



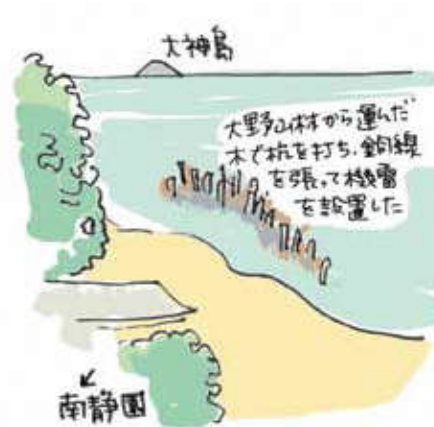
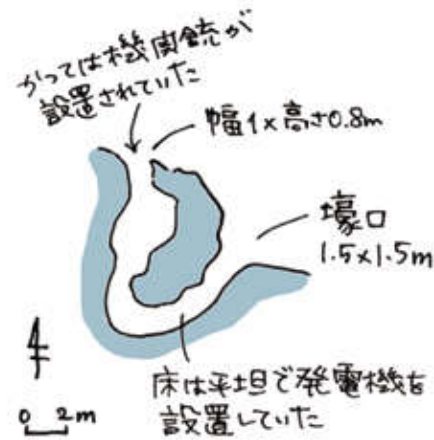
かいぐん せつけいせいぞう せんしゆないぶ さくやく どうさい
海軍が設計製造した特攻艇。艇首内部に炸薬を搭載し、体当たり攻撃する目的で量産を考慮して設計、製造された。2人乗りタイプには機銃1～2丁が搭載され、指揮官艇として使用された。戦争末期は2発のロケット弾が搭載された。

みや こなん せい えん き かんじゆう ごう
宮古南静園の機関銃壕



所在地：平良字島尻（南静園の海岸線付近）

国立ハンセン病療養所宮古南静園の敷地北側にある船揚げ場の浜の崖に、U字型の壕があります。この東海岸一帯は、米軍が上陸する地点と想定されていたため、上陸を阻止するための重火器が設置されました。この壕は「歩兵第30連隊速射砲中隊」が造ったと考えられています。



壕口



砲口



通路



き かんじゅう こう
パイナガマの機関銃壕



所在地：平良字下里 (パイナガマビーチ付近)

この壕は、パイナガマビーチ西側の長崎半島の付け根にあり、砂浜が途切れる部分の岸壁にあります。石灰岩をくりぬいて坑道をつくり、銃眼のみコンクリート造りになっています。銃眼から約8m離れたところに、約4mの竖穴があり、ここから出入りしていました。満潮時には銃眼下まで海面が来ます。この壕はパイナガマに上陸する敵を迎え撃つための施設と考えられています。



遠景



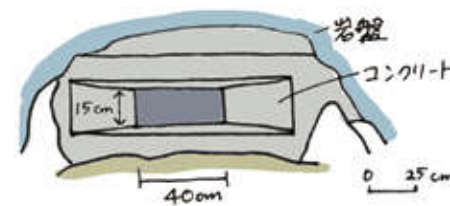
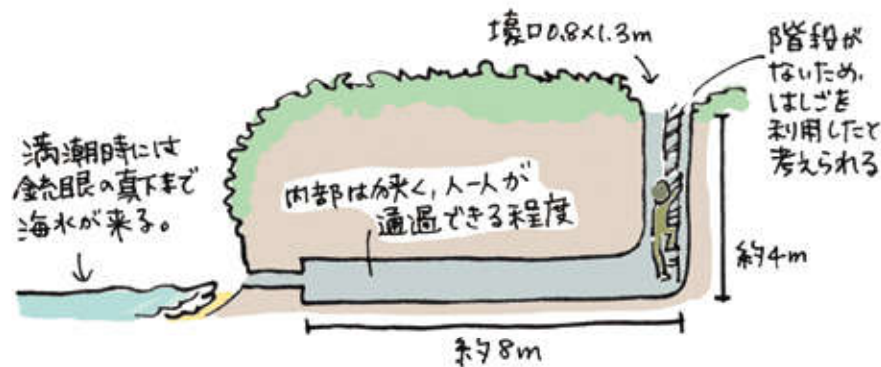
銃眼



壕口



壕内部



※銃眼：敵を銃撃するために防壁に設けた小さな穴



ひさまつ きかんじゆうごう
久松の機関銃壕



所在地：平良字久貝（久松五勇士碑付近）

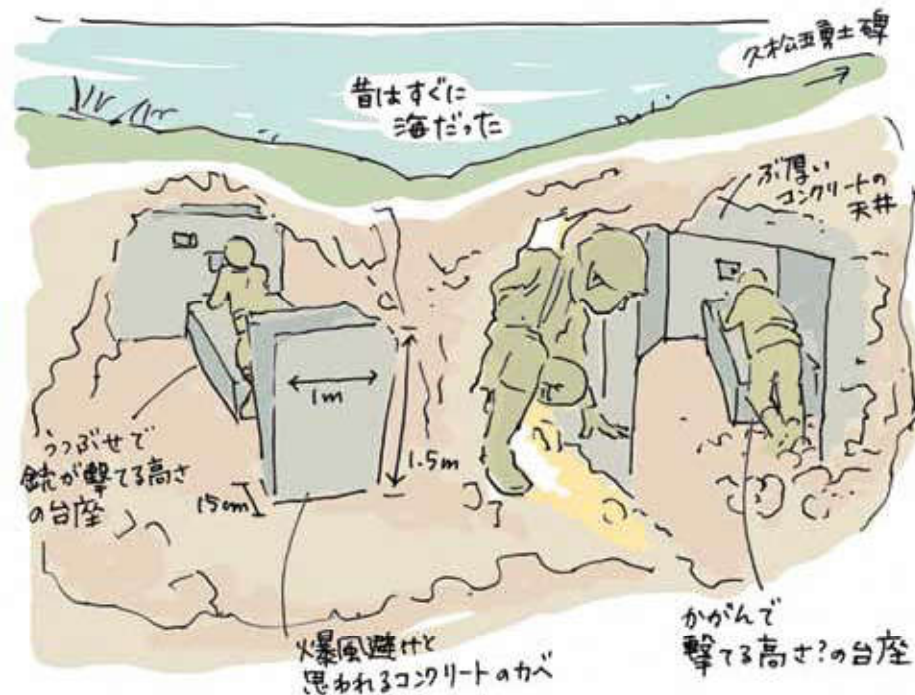
久松五勇士を称える記念碑の西側の緩斜面下に、機関銃壕があります。壕口は狭くなっていますが、中は立って歩けるほどの広さで、銃眼は東側と南側の2か所に配置されています。壕は自然壕を利用していますが、内部にはコンクリート造りの台や、爆風避けの壁が造られています。かつてはこの壕の西側は海岸線でしたが、現在は埋め立てられています。この壕は、海軍の警備隊が使用していたと思われます。



コンクリート造りの台と銃眼



爆風避けと思われるコンクリートの壁



みね かいぐん ほうだい
パナタガー嶺の海軍砲台・トーチカ



しよざいち ひらあざにしはら
所在地：平良字西原（パナタガー嶺ファームポンド付近）

宮古島内では数少ない高地の一つであるパナタガー嶺（標高95.4m）の中腹にあり、50mほど琉球石灰岩を掘り抜いた壕となっています。通路の幅は大砲を入れるために大きく、砲台設置場所はコンクリートづくりで、階段を上った先には着弾地点を確認するための観測場所もあります。戦後、鉄が高く売れたため、コンクリート部分は鉄筋を取り出すために削られており、地面に欠片が散乱しています。

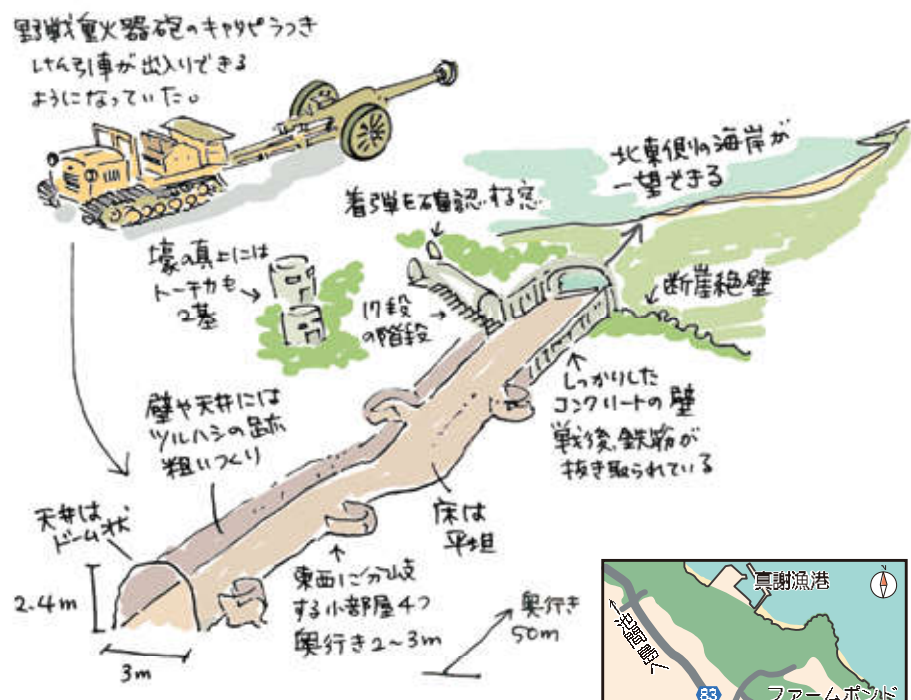
かいぐん せいえいたいだい ちゆうたい こうちく
この壕は「海軍第313設営隊第2中隊」が構築し、14センチ
かのんほう せつち い ぶたい さんほうへいだい れん
加農砲が設置されたと言われています。部隊は「山砲兵第28連
たい しきか ささしましゅうだん ほうへいたい ちゅうとん
隊」の指揮下であった「先島集団砲兵隊」が駐屯しました。



かんそくぼしよ かいだん
観測場所へつづく階段

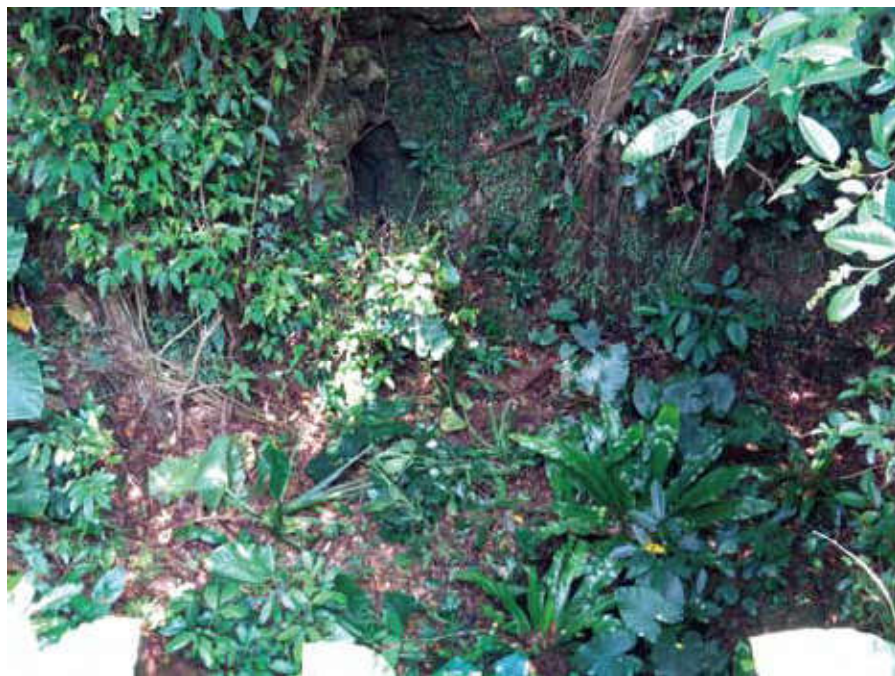


てつきん ぬ へき
鉄筋を抜かれたコンクリート壁



※本壕は、「ピンフ嶺の野戦重兵器砲壕」と報告されていた壕の名称を変更したのになります

しらばりがー ちかごう
白原井の地下壕



しよざいち ひらら あざにしなかね そえどうしゅうらく ひがしがわ
所在地：平良字西仲宗根（添道集落の東側）

そえ どうしゅうらく ひがしがわ はたけ なか
添道集落の東側の畑の中に白原井と
よ 呼ばれる井戸があり、その脇に掘り込
ま れた壕です。ごうぐち は 1m しほう せま
ま 壕口は1m四方と狭
く、ないぶ は 広くなっています。添道地
い き まち なか じゅうみん ひなん ばしよ
域は町中の住民の避難場所になってい
くうしゅう はげ ねん がつ
て、空襲の激しくなった1944年10月
いこう つく かんが
以降に造られたと考えられています。



なそこ ちかごう
那底の地下壕



しよざいち ひらら あざしもさとかがみはら みやはらいりぐち ふ きん
所在地：平良字下里鏡原（宮原入口付近）

この壕は野原岳から続く尾根の北端にあります。出入口
は2ヶ所あり、内部でコの字型に繋がっています。壕口付近
は壁、天井とも荒く削られています、奥の方の壁は丁寧に
削られています。陸軍病院として使わ
れていた鏡原小学校裏手の丘陵のすぐ
近くで、近辺には多くの壕があったと
いわれ、その一つと考えられます。



もり かごし かい ぐん つう しん たい ぐう
盛加越の海軍通信隊壕



しよざいち ひらら あざひがしなかね もりかごしこうえんない
所在地：平良字東仲宗根（盛加越公園内）

盛加越公園内にコンクリート造りの通気口が3本残っており、この通気口の地下には4畳半から6畳程度の部屋を3つ繋げた構造の地下壕があります。公園の整備の際に出入り口などが塞がれ、中を覗くことはできません。この地下施設は「日本海軍通信隊」が使用し、モールス信号の受信や飛行機の離発着に必要な気象状況の観測などが行われていました。



くり ま さん ぼう じん ち ぐう
来間の山砲陣地壕



しよざいち しもじ あざくりま
所在地：下地字来間

来間漁港西北の急崖の真ん中に位置し、2つの壕が並んでいます。砲口はコンクリートで固められていて、宮古島の南西部を見渡すことができます。この壕は「山砲兵第28連隊」の「第6中隊」が使用していました。砲口の1つは東側、もう1つは北側を向いていて、下地方面の防衛にあたっていたと考えられます。



チフサアブ



遠景



壕内部

所在地：下地字来間（来間島東側海岸付近）

来間の山砲陣地壕から約200m北側の、来間島東海岸の急崖の中腹にある住民避難壕です。コンクリートで造られた入り口は縦90cm、横50cmと狭く、入り口付近は急な傾斜になっていますが、内部は広く、約200人が入ることができます。入り口以外は全て自然の鍾乳洞からなっていて、別名「千人ガマ」と呼ばれていました。



タカシカバーの機関銃壕



所在地：上野字宮国（博愛漁港南東海岸線沿い）

この壕は、うえのドイツ文化村の南側の海岸沿いに広がる岩の突堤にあり、壕の真ん中には石灰岩をえぐって機関銃を据えたとおられる台座が残っています。この台座に銃の軸を差し込んで安定させ、三脚で固定してもくひょうぶつ しょうじゆん あ 目標物に照準を合わせたのではないかと考えられています。



の ぼる だけしゅう へん せん そう い せき ぐん
野原岳周辺の戦争遺跡群

ひょうこう 108mの野原岳から南の大嶽城跡公園まで、38基の壕と、3基のトーチカ、3基のコンクリート造りの電波探知機壕があります。野原岳は宮古島の中央に位置し、標高が100m以上の高い山で見晴らしがいいことから、日本軍の司令部壕を始めとした軍関係の施設が多く建設されるなど、宮古島を代表する戦争遺跡です。現在は航空自衛隊宮古島分屯基地内にあるため、多くは直接見ることはできません。

でん ば たん ち き ぐろ
電波探知機壕

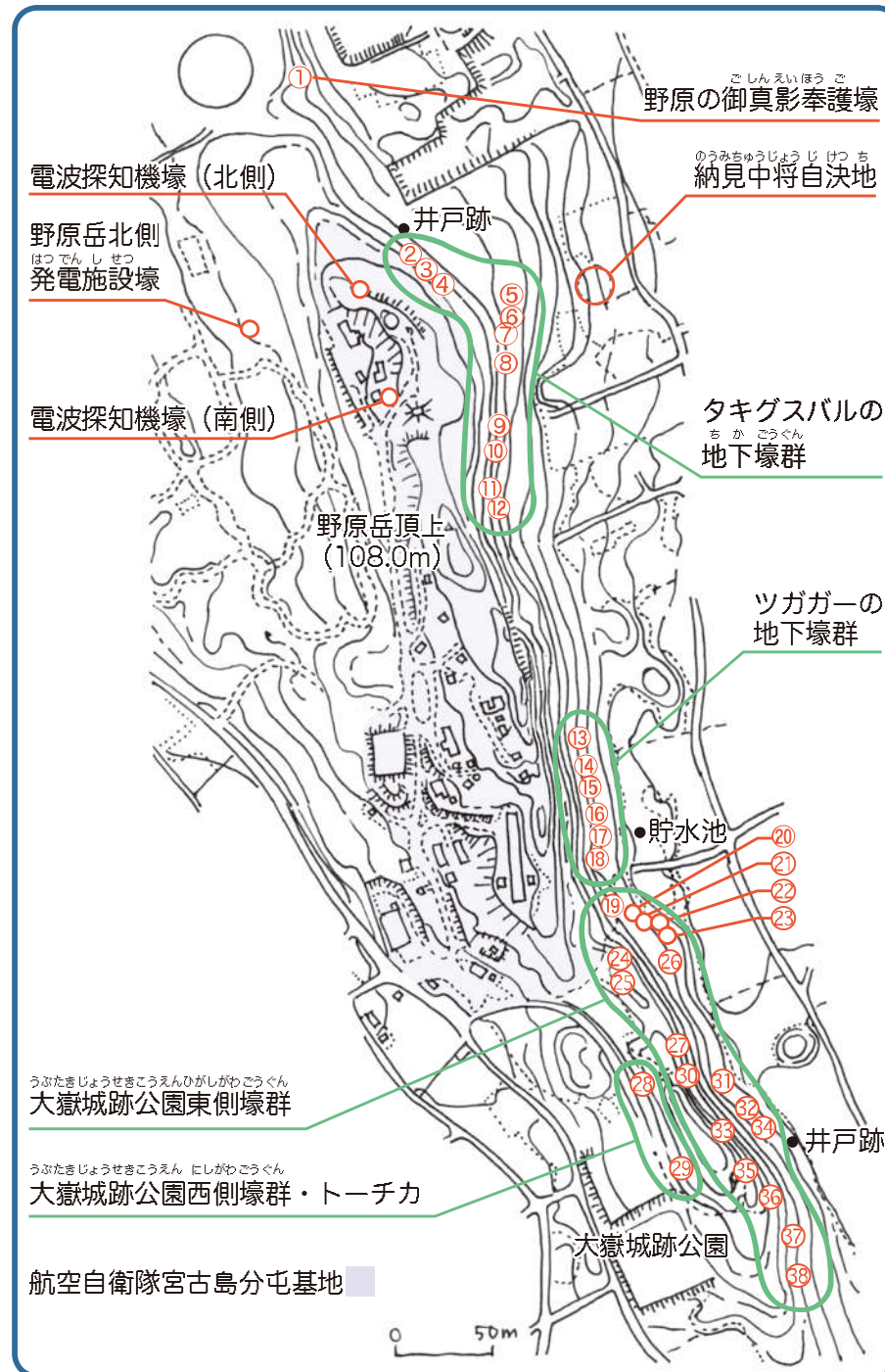


電波探知機壕Ⅰ（基地内）



電波探知機壕Ⅱ（基地内）

この壕は敵機来襲への警戒を目的としたもので、コンクリート造りの2棟の壕を通路で繋ぐ形をしており、野原岳に2基設置されています。



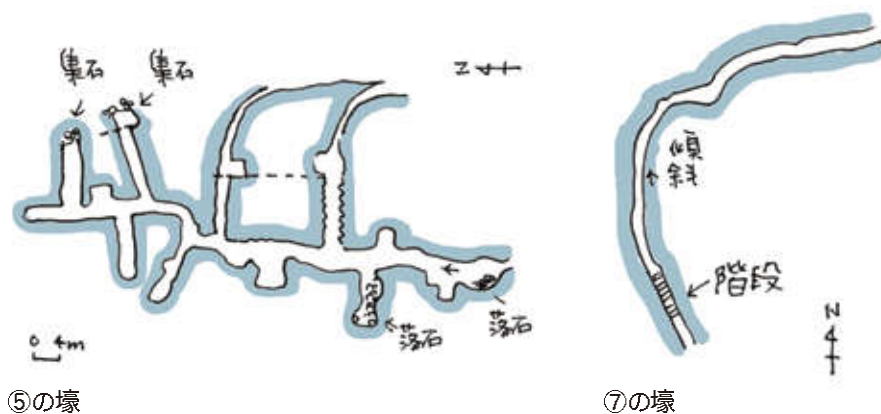
チカコウクン タキグスバルの地下壕群



まつざい いちぶのこ
松材が一部残っている (壕⑤)



かいだん つうろ
階段のある通路 (壕⑦)



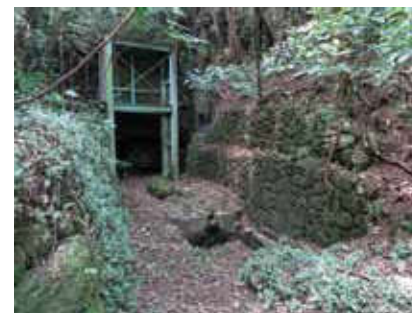
⑤の壕

⑦の壕

これらの壕は、野原岳の東側一帯に点在する壕です。中でも⑤の壕は、総延長80mを有する最大規模の壕で全て石灰岩を削り込んで掘られています。聞き取りや体験談などからこのあたりに司令部壕があったという証言があり、また、壕の規模や柱などを有する構造から、この壕が第28師団の司令部壕であったと考えられています。内部は数百人を収容できる広さでした。

ツガガーの地下壕群

ツガガーと呼ばれる井戸の周辺に15基の壕があります。壕の大きさと聞き取り調査から、ツガガーの壕群は戦車を配備していたと考えられます。



ツガガー

井戸は日本陸軍が接收し、コンクリートで固めて軍の上層部が水浴びに使用していたようです。

大嶽城跡公園西側壕群・トーチカ / 大嶽城跡公園東側壕群

西側壕群は、展望台のすぐ北側に3つのトーチカがあり、その下部にある壕は歩兵第3連隊に関連する施設と考えられています。



展望台の北側にあるトーチカ

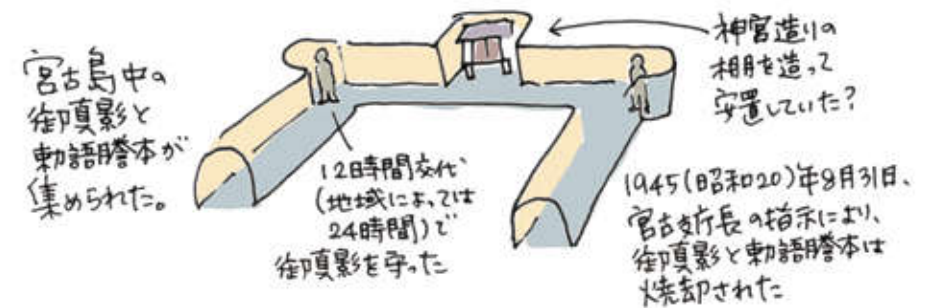
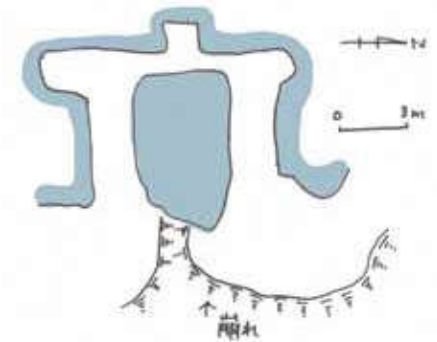
東側壕群の詳しい用途については不明ですが、聞き取り証言から、戦車壕がいくつか配置され、また37、38の壕は総延長約100mで薬品の瓶が散乱するなど、病院壕として使用されたと考えられています。2003年の台風14号によって一帯に土砂が流れ込み、小規模な壕のいくつかは壕口が埋没してしまっています。



1944 (昭和19) 年10月10日の「十・十空襲」をきっかけに、戦火から御真影を守るために、宮古島の各学校に置かれていた御真影 (天皇・皇后の肖像写真) をこの奉護塚に避難させました。塚は各学校の男性教員の手で掘られ、12時間交代で守られました。内部には白木で組まれた神宮造りの棚が作られ、守衛にあたる先生は、拝礼をしてから勤務したとされています。



御真影が安置されていた棚と考えられる



御真影とは



戦前、天皇は現人神 (この世の神) とされていました。歴代天皇の写真 (御真影) は、天皇と同一視され、全国の学校で、もっとも神聖なものとして扱われました。

奉護・奉焼: 「護る・焼く」を丁寧にしたことば
教育勅語: 正式名称は「教育二関スル勅語」。明治天皇が国民に道徳のあり方を語りかけた「お言葉」
謄本: 原本の内容を全部写して作った文書

けんない ゆい いっげん ぞん ひ こうじょう もう し き しよ
県内唯一現存する、飛行場に設けられた指揮所

りく ぐん なか ひ こう じょうせん どう し き しよ あと
陸軍中飛行場戦闘指揮所跡

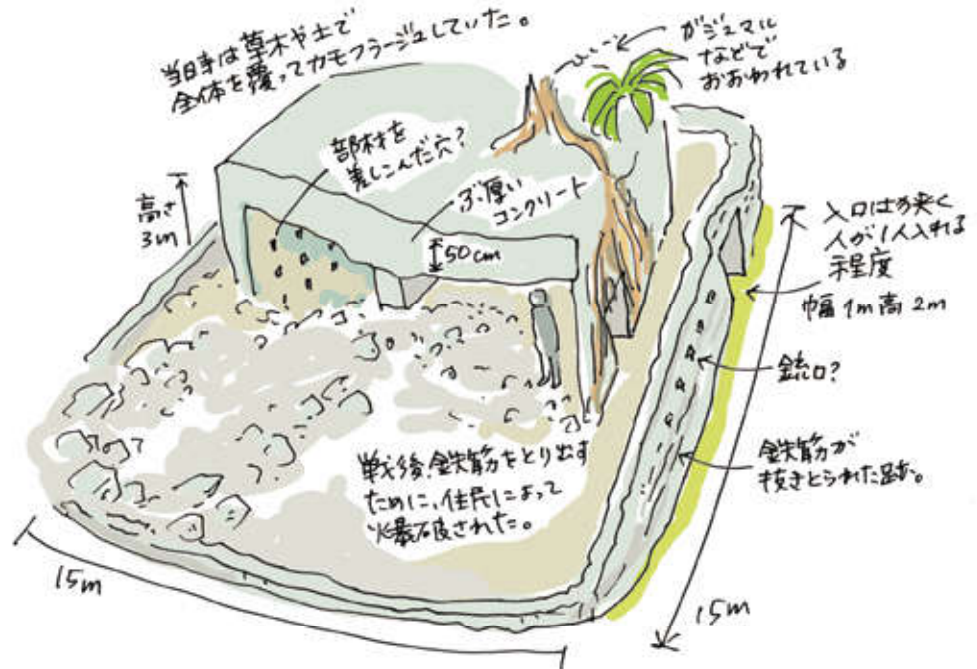


しよざいち ひらら あざうえの こくどう ちゆうせんぞ
所在地：平良字上野 (国道202号線沿い)

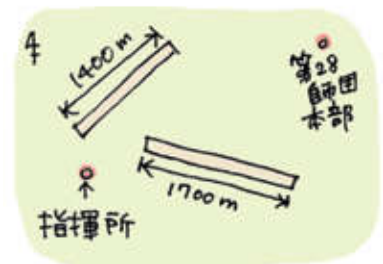
飛行場に設けられた戦闘指揮所跡として現存しているこの戦跡は、沖縄県内唯一のもので、宮古島での地上戦が激化した時を想定し、非常時に指揮官が中に入って指揮をとる目的で造られましたが、地上戦をすることなく終戦となったため、指揮所としての利用はありませんでした。この指揮所は、「独立機関銃第18大隊山内小隊」が利用した記録が残っています。



指揮所内部



その他



1944年、突貫工事2ヶ月で完成!

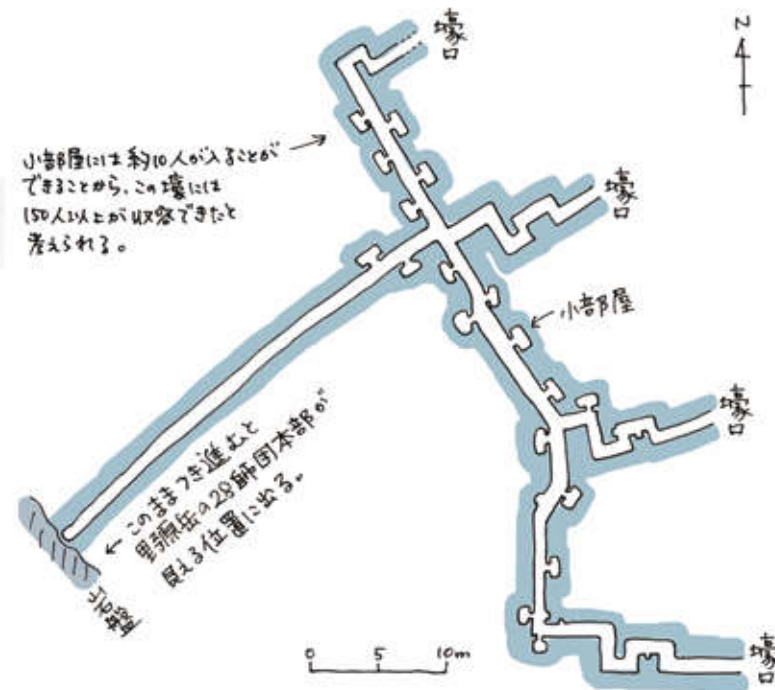


にし さら たけ し れい ぶ ごう
西更竹司令部壕



しよざいち ぐすくべあざしもさとそえ さらたけきゅうりょうちない
所在地：城辺字下里添（更竹丘陵地内）

この壕は、宮古島の南北に連なる更竹丘陵地の東北側に位置しています。4つの壕口が内部で連結しており、壕の総延長は224mにも及びます。また、壕内には18もの脇部屋が設けられています。この壕の東側にある西城小学校には、「独立混成第60旅団」の本部が置かれており、その司令部壕ではないかと考えられています。



壕口



あか っ かりを吊るすための金具



小部屋



の ばる だけ ぼう えい りゆう だん ぼう
野原岳を防衛する榴弾砲秘匿壕群

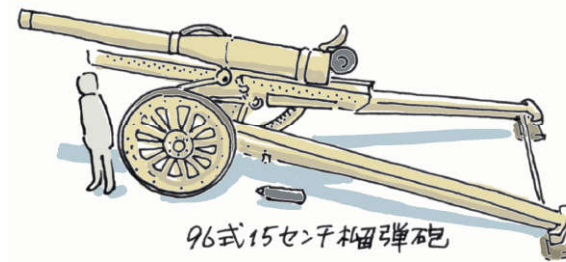
しも さと ぞえ や せん じゅう か き ひ とく ごう ぐん
下里添の野戦重火器秘匿壕群



しよざいち ぐすくべあざしもさとぞえ
所在地：城辺字下里添

この壕群は4つの壕からなり、野戦重砲第1連隊第1大隊が使用していました。東側の3つの壕は96式15糎榴弾砲を秘匿、設置するために構築されました。壕の入り口は野原岳を望む南西の方角を向いており、野原岳の第28師団本部を後方（東側）から援護することを目的としています。

壕①は終戦後に納見中将の命令によって納骨堂へ転用されており、周辺には記念碑が立ち並んでいます。



96式15センチ榴弾砲



のうこつどう
納骨堂



かいだん
壕②の階段



砲のの違い (現在は木造能が似てきている)

<p>榴弾砲</p> <p>曲射が主</p> <p>砲身は短く太い</p> <p>低初速・短射程</p> <p>着弾すると爆発する榴弾砲を撃つためのもの</p>	<p>加農砲 = キャン砲</p> <p>仰角が主</p> <p>砲身は細長</p> <p>高初速・長射程</p> <p>戦車などを撃ちまくる榴弾砲などを撃つため重く大きい</p>
--	--

重火器砲壕・機関銃壕

せん そう い せき ぐん
アーリヤマの戦争遺跡群

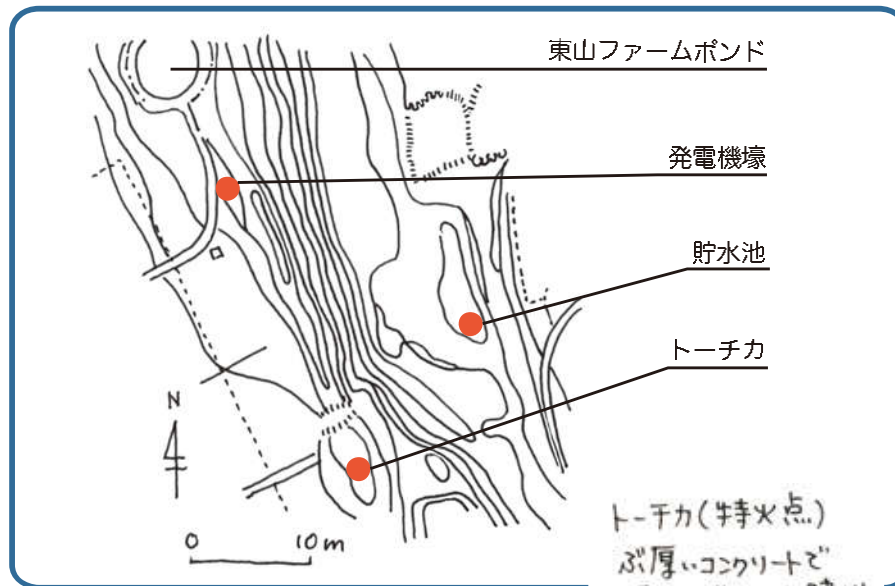


しよざいち くすくべあざにしすくぼり ひがしやま ふ きん
所在地：城辺字西底原（東山ファームポンド付近）

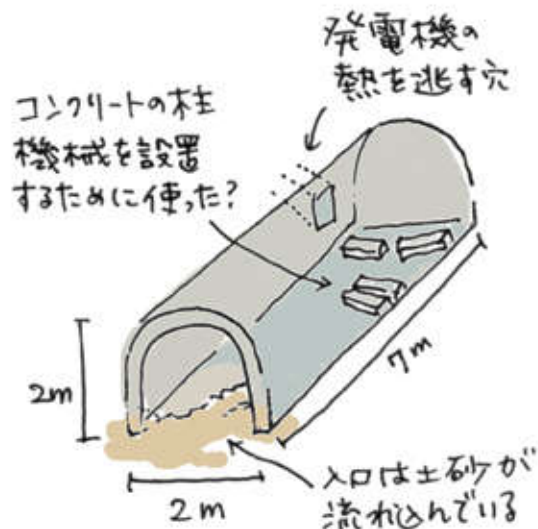
なが やま きゅうりょうち ひがしやま なんとう がわ い ち
長山の丘陵地にある東山ファームポンドの南東側に位置し、発電機壕やトーチカ、貯水池からなる遺跡です。発電機壕は海軍313設宮隊が構築したと言われています。この近辺に通信隊がいたという資料があり、発電機壕は電波探知機を起動させるものだったと考えられています。トーチカは宮古島南側一帯を見渡せる丘陵の頂上に構築され、見張り台としても利用されました。2人程度が入ることのできる広さで、

がん ばん ない ぶ おお
岩盤をくりぬいた内部はコンクリートで覆われています。

う すい た つく やく
雨水を貯めるために造られた貯水池は、約2.5m×1.5mでほぼ完全な形で残っていますが、危険防止のために塞がれています。



トーチカ(特火点)
ぶ厚いコンクリートで頑丈に造られた陣地



その他

まぎやま じんち ころ
牧山陣地壕



所在地：伊良部宇池間添（牧山展望台付近）

伊良部島内の最高地点である牧山（標高88m）の頂上近くの、標高75m付近に設置された陣地壕で、牧山展望台への遊歩道沿いにあります。砲口からは宮古島北部の西海岸を一望でき、平良港の防衛のために設置したと考えられています。この壕は自然壕に手を加えた物ではなく、一から石灰岩を掘り込んだ壕だと考えられています。この壕には「野戦重砲第1大隊の第1中隊」と「山砲第28連隊第3中隊」が駐屯していました。



壕口



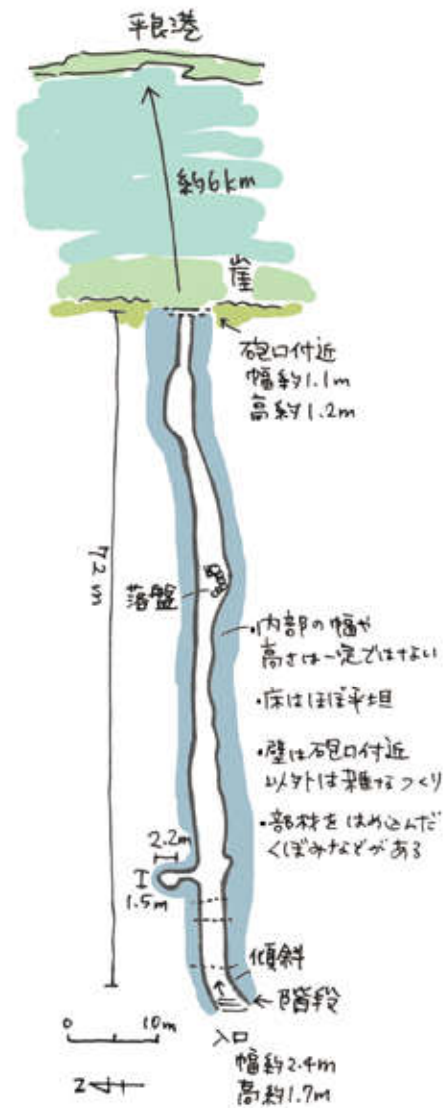
壕の内部



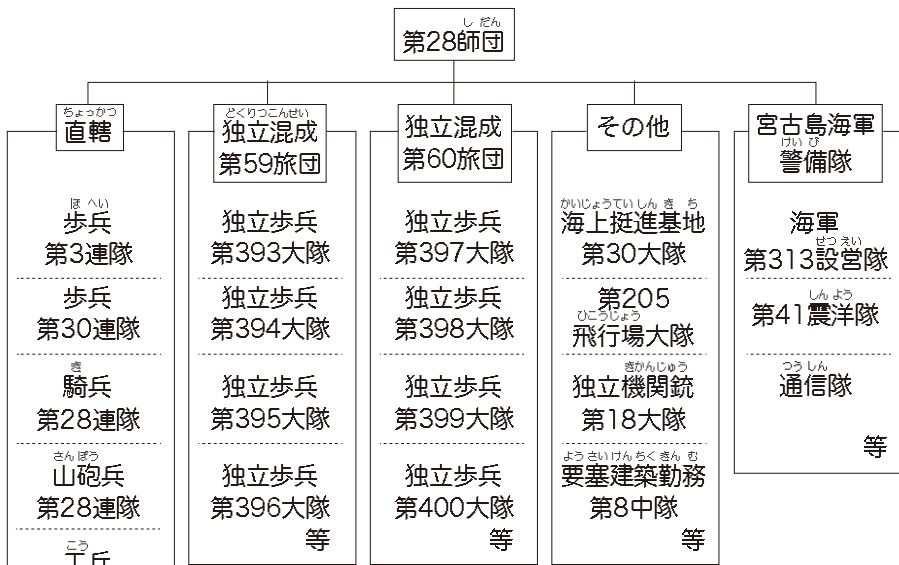
砲口（壕内部より）



砲口から望む平良港一帯



宮古島内に配備された主な部隊編成と用語集



- 第28師団：通称「豊部隊」。1944（昭和19）年6月28日に満洲で編成され、8月中旬に宮古島へ上陸。納見敏郎中将を師団長として、野原岳に本部を置く。
- 第59旅団：通称「碧部隊」。1944（昭和19）年8月に満洲で編成され、9月下旬に宮古島へ上陸。多賀哲四郎少将を旅団長として、添道に本部を置く。
- 第60旅団：通称「駒部隊」。1944（昭和19）年8月に満洲で編成され、9月中旬に宮古島に上陸。安藤忠一郎少将を旅団長として、西城国民学校に本部を置く。

歩兵..... 戦場を徒歩で行動する兵士
 騎兵..... 馬に乗って戦う兵士
 山砲..... 重火器の一種。山地などで使えるよう分解して運搬できる
 山砲兵..... 山砲を保有する部隊の兵士
 工兵..... 橋や飛行場などを建設または敷設、あるいは爆破するために必要な技術と資材をもつ部隊
 輜重兵..... 軍需品の輸送を任務とした兵士
 野戦病院... 戦場に置かれる病院
 海上挺進基地大隊... 特攻艇秘匿壕などを作る部隊

軍の編成

名称	従属部隊	構成人数	指揮官	階級
師団	司令部を有し独立して作戦する歩兵4個連隊を軸とする	1～2万5,000以上	師団長	中将
旅団	2以上の連隊又は大隊で編成	2,000～5,000	旅団長	少将
連隊	数個大隊又は中隊で編成 県・市・区・郡別に置かれた	500～5,000	連隊長	大佐/中佐
大隊	歩兵4個中隊と機関銃1個中隊で編成	300～1,000	大隊長	少佐/大尉
中隊	3～4個小隊からなる	60～250	中隊長	中尉/少尉
小隊	30～50人の小部隊	30～50	小隊長	少尉/准尉
分隊	軍隊構成上の最小単位	12～	分隊長	軍曹/伍長

階級

	将校（士官）						准士官	下士官			兵							
	将官		佐官		尉官			曹長	軍曹	伍長	兵長	上等兵	一等兵	二等兵				
陸軍	大将	中将	少将	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准尉	曹長	軍曹	伍長	兵長	上等兵	一等兵	二等兵	
海軍	大将	中将	少将	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准尉	兵曹長	上等兵曹	一等兵曹	二等兵曹	水兵長	上等水兵	一等水兵	二等水兵

飛行場大隊..... 飛行場管理・機体整備・補給・通信・気象等の業務を行う
 震洋隊..... 特攻艇を使った特攻部隊（P21参照）
 野戦重砲..... 野戦に使う口径が10～15cm程度の火力の大きい大砲
 重火器..... 破壊力が大きく重量のある銃砲。重機関銃、大砲など
 榴弾砲、加農砲が代表的（榴弾砲、加農砲P47参照）
 速射砲..... 間隔を短く、続けざまに発射可能な火砲
 機関銃..... 引き金を引き続ければ、連続して自動的に弾丸を発射できる火器
 複廓主陣地..... 司令部を中心に幾重にも巡らされた主陣地
 秘匿壕..... 武器や物資などを隠すために造られた壕
 電波探知機..... 電波の発信位置を探知する装置。敵機来襲の警戒などにあった
 接收..... 国などの権力機関が個人の所有物を強制的に取り上げること
 復員..... 戦争編制の軍隊を平時体制に戻し、兵員の召集を解除すること
 また兵役を解かれて帰省すること
 BC級戦犯..... 第2次世界大戦後、連合国によって捕虜虐待など「人道に対する罪」や「通例の戦争犯罪」に問われた元軍人ら。
 遷座祭・奉遷... ご神体を遷す祭儀のこと・ご神体をよそへ遷すこと
 奉還..... お返しすること

※用語解説は主に『広辞苑』などから作成しました

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です
たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



宮古島市 neo 歴史文化ロード **綾道 (戦争遺跡編)**

発行年月 平成 28 年 3 月
編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里 600 番地 1
TEL 0980-77-4947 FAX 0980-77-4957

イラスト・デザイン 山田 光

平成 27 年度宮古島市 neo 歴史文化ロード整備事業